あれから何度も…
私は脱出を試みた…
団長ちゃんを
助けるために…
「懲りねえ奴だな
この牛乳女は！」
「放してっ!!」
「放しなさいっ!!」
「お仕置きが
足りてねえのか!?」
でも…力を落とされ
媚薬で体の自由が
利かない私は
すぐに捕まってしまい
その都度私への
行為は激しさを
増していった
「痛…っ！
いやっ
あああああっ!!」
「このデカ乳から母乳が
吹き出る日が来るのが
待ち遠しいぜ!!」
媚薬で開発の進んだ体は
次第に痛みも快楽に変わり
ついに絶頂を
覚えさせられてしまった…
「イ～～～～～っ!!」
「お、今イッたぞこいつ!!」
「結構頑張ったな
その分我慢してた反動で
全身痙攣しまくってるぜ」

もっと腰ふれっ!!
気が付けば見知った騎空団の人たちもいた…
皆団長ちゃんのことを心配して探し回ってくれてたのだろう…
でも…彼女達は私と同じ「雌」…
結果は変わらない
一人…また一人と…
「雌」の慟哭が聞こえる
彼女たちはこの下卑た者たちの陥穽に嵌り
媚薬で体の芯を焦がされながらアソコを無理やり貫かれ…
男たちの子種で真っ白に穢されていった…
もうやだ…
はいらないよぉ…

毎日気絶するまで
絶頂させられ
大量の子種を
注がれた私の体は
既に快楽で
屈しかけていた
ボト…
ボト…
「おい、こいつ毎回
逃げ出すから
何人か衛兵回しとけ」
このままじゃいずれ
心も屈してしまう…
でも…それでも
目的を達成するまで
私はこれを
繰り返すしかない…
衛兵の目が
団長ちゃんから
私に向き始めている…
「私」ではなく…
「団長ちゃん」を
逃がすために…
それだけが
今の私の心の支え…
そして…
「おい！そっち探せ」
「まだ遠くには
行ってないはずだ」
「くっそ！
あの雌ドラフが!!」
「あのジータって
ガキを逃がすために
ずっと囮になって
やがったのか！」
ボトト
「おいそれよこせッ!!」
「これでも
しゃぶってろッ!!」

「すぐに近隣のマフィアにも知らせて探させろ！」
団長ちゃんが脱走し囮だった事がバレた私は自らの髪で縛られ磔にされた後ひどい拷問を受けた…
「どうするこいつ？」
「決まってんだろ」
「これから毎日便器として常にマンコには2本ぶち込んで子宮が使い物にならなくなるくらい犯して犯しまくってやるんだよ!!」
折れた愛刀の柄で貫かれても絶頂してしまう…
それほどまでに私の体は淫らに壊されていた
「なんなら拳突っ込んでも構わねえ！」
「後は他の奴らへの見せしめとして磔だ！」
耳障りな…男の声が聞こえる…
だんちょう…ちゃん…
団長ちゃんはどうなっただろう…
騎空団…の皆…と…合流でき…たかな…
…おそらく…私はもう助からない…
薄れゆく意識の中胎内で魔力が分裂しているのを感じた…
ビクン
ボトボト…